飢餓対策ニュース　第 288 号　発行日 2014 年 6 月 20 日（毎月 20 日発行）定価 15 円

日本国際飢餓対策機構（Japan International Food for the Hungry：略して JIFH）は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体（NGO）です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合（Food for the Hungry International Federation）の一員として、20ヶ国 60の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。

アイスコーヒーでクールダウン！
協力企業キングダムビジネスから

人気のモカブレンドで、おいしいオリジナルのアイスコーヒーが作れます。淹れ方のレシピを同封してお届けします。

ハンガー・ゼロ活動支援レギュラーコーヒー／モカブレンド@870円×３袋。税込2,610円を**税込2,200 円送料無料**でお届けします。（但し、北海道・沖縄・離島へは運賃別途要）

先着10 名様にカップ用ドリップフィルター10枚プレゼント。

★収益の一部はアフリカ・ケニア シープケアセンターの給食支援などに用いられます。

【お求め、問合せ先】
㈱キングダムビジネス
TEL：06-6755-4877　FAX：06-6755-4888
電話受付：平日9時～16 時
Web：キングダムビジネスで検索。おいしいコーヒーから。

8月 ハンガーゼロ HZファシリテートレーニング

海外での活動をめざす方に特別な学習の機会です。ぜひご参加ください！

日時：2014.8/11 ㊊～8/16 ㊏
場所：三滝グリーンチャペル スマイル館
広島で初開催
〒733-0802　広島県広島市西区三滝本町2-10-24
費用：30,000 円（食費、宿泊費、テキスト代込み）
お問合せ：☎072-920-2225（担当・吉本）
定員：12 名

かざして募金 iPhone 用アプリも

ソフトバンクモバイル（株）の社会貢献事業の「かざして募金」（スマホからの簡単募金）の iPhone 用の iOS アプリが登場しました。アップルの App Store から「かざして募金」で検索すればダウンロードができます。

2014夏　ウガンダワークキャンプ参加者の最終募集

●ウガンダワークキャンプ
日程：８月 18日㊊～ 30日㊏
費用：33万 8千円　定員：10名
内容：国際飢餓対策機構ウガンダがナムトゥンバで実施している活動について学び、現地の人々と共に、カサーレ小学校教室建設のお手伝いをします。ワークは男女に関係なく行えるものです。

現地では500名の子どもたちと家族が新しい教室ができるのを楽しみにしています。

ウガンダ・カサーレ小学校 教室建設プロジェクト募金
1口 5,000円 目標1,000口

郵便振替は「ウガンダ学校建設」と明記、ウエブサイトからもできます

ハンガーゼロ サポーターを大募集中!!
現在…3606口

今すぐ ▶▶▶ 各種支援のお申し込みができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。**お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。**

- □ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ チャイルド・サポーター（世界里親会）になりたいので説明書（申込書）を送ってください。
- □ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 1,000 円）
- □ JIFHサポーターとして協力します。毎月（　　）口　（1口 500 円）
- □ ウガンダ学校建設に（　　）口協力します。
- □ 今回に限り（　　）円協力します。
- □ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- □ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ
氏名：　　男・女

〒
フリガナ
住所：

（電話）

▼申込日：　年　月　日▼ NL 288 号

FAX・072-920-2155

■発行者　岩橋竜介
■発行所　一般財団法人　日本国際飢餓対策機構
ハンガーゼロで検索！
Webサイトアドレス　http://www.jifh.org/
eメールアドレス　general@jifh.org
フェイスブック　https://www.facebook.com/hungerzero
■募金方法　※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウエブサイトで
●郵便振替　00170-9-68590 ／日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替●クレジット、デジタルコンビニ
今すぐ募金ができます！　JCBカードも使えるようになりました！　かざして募金
「かざして募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル（株）経由となります。詳しくはウエブサイトをご覧ください。

大阪　〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1　TEL（072）920-2225　FAX（072）920-2155
東京　〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCC ビル 517 号室　TEL（03）3518-0781　FAX（03）3518-0782
東北　〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6エマオ２階 E　TEL（022）217-4611　FAX（022）217-6651
愛知　〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F　TEL（052）731-8111　FAX（052）731-8114
広島　〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLC ブックス 2F　TEL（082）546-9036　FAX（082）546-9037
沖縄　〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号　新住所　TEL（098）943-9215　FAX（098）943-9216
USA　Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa 8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605　TEL（510）568-4939　FAX（510）293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所（八尾市）、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をして下さっています。

1分間に17人（内12 人が子ども）
1日に2 万5,000 人
1年間では約1,000 万人が
飢えのために生命を失っています。

一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
2014 7 No.288

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる

ボリビア・アサワニセンター校のマーチングバンド（３面に記事）

平和の種を蒔きつづけよう

日本国際飢餓対策機構　啓発総主事　田村治郎

昨年の世界食料デーでは、子どもたちの将来に希望を生み出し、そしてなによりも子どもたち自身が世界を変える希望そのものであることを掲げ、教育支援を通して平和を実現する者へと成長するようにと皆様からの尊い支援を用いさせていただきました。今年も続けて子どもたちに焦点を合わせ、子どもたちが夢を掲げその夢に向かって前進できるように愛の輪を広げてゆきたいと願っています。

子どもたちが将来の夢を持つことは、日本では至極当たり前のことのように思います。しかし途上国の極めて困難な環境に生きる子どもたちにとって、夢を描くこと、そしてその夢に向かって努力し夢を達成するということは、それこそが「夢」と言える遠い存在です。

数年前アフリカ、エチオピアの村を訪問した時のことです。村の子どもたちが大勢集まって、同行した親善大使の森祐理さんの歌に聞き入っていました。歌い終わった彼女が子どもたちに「皆さんの将来の夢は何ですか？」と尋ねると、そこにいた多くの子どもたちが少し困ったような顔をしてしばらく考え込んだあと、「ドライバーになりたい」「洋裁の仕事がしたい」「学校の先生」と教えてくれました。マラソン選手と答える子どもがいなかったのは意外でしたが、都市部から遠く離れたこの村にはテレビもなく、自分の国がマラソン強国であるという事を知らなかったからでしょう。しかし、私たちはその後のスタッフの説明に言葉を失いました。「この子たちの本当の夢は、大人になることなんですよ…」

エチオピアの５才未満の幼児死亡率は1,000人中68人（日本は1,000人中３人）。子どもたちにとっては身近な友だちが兄弟が死に行く姿を目の当たりにして「次は自分かもしれない」と恐れと不安を抱えています。大人になるという私たちにとっては当たり前のことを、この子たちは夢見ていました。

子どもたちがどんな国に生まれてもどんな環境に置かれても、大人になることが当たり前の世界、夢を持って生きることが叶う社会、開かれた未来が自分を変えるだけでなく、誰もが教育を受け、尊重される平和な国へとその国を変革する者となることを、JIFHは願っています。「生きてよかった！」とそう告白できる子どもが一人でも増やされる、平和を作り出す人づくりの働きに加わってくださいませんか。

「義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれる」（ヤコブ３章18節）

WFD
10月16日は世界食料デー

2014年のテーマ

夢への一歩、ここから

We have a dream

～広がれ愛の輪、つながれいのち～

今年のテーマには、飢餓と貧困の中に生きる子どもたちが夢を持ち、その夢の実現のために一歩を踏み出すことができるように、という思いが込められています。子どもたちが教育の機会を得、成長してやがてその地域や国、社会の変革の担い手になることを願っています。

実行委員会で大会を運営

世界食料デーは、今世界に広がる食料の問題を知り、共に生きるために一人一人ができることを考える日です。この趣旨に賛同する各地の実行委員会がJIFHと共に、毎年全国約20ヵ所で世界食料デー大会を開催しています。今年ぜひ足を運んでみてください。各地の大会は、それぞれの実行委員会によって計画、運営されるため開催内容やスタイルにも工夫が凝らされています。飢餓問題についての講演、海外駐在員の現地報告のほか、音楽（ミニコンサート）やゲームやクイズ、フェアトレードグッズの販売など、来会者も運営側も楽しめるものとなっています。また、ボランティアとして運営に参加できる大会もあります。

小グループや個人でもできます

このような大会に関わる以外にも、飢餓と貧困と闘っている人々を応援したい、自分たちから何かを始めていきたいという思いがあれば、

どなたでもこの運動に参加していただけます。

例えば市民グループや学校、サークル、家族や個人でも参加することができます。世界食料デー大会という名称がなくても、グループでコンサート、スポーツ、バザー等のチャリティ・イベントを計画したり、世界の子どもたちによる児童画展（JIFHが提供）を開催したりすることもできます。

職場や学校、教会、家庭で、「節食ランチ」（節約メニューによる食事）をして、食べ物が与えられていることに感謝し、一食さえ食べることのできない人々のために節約できた分を支援にまわすのも一つの方法です。また、「ハンガーゼロ募金箱」を活用して、募金を始めることもできます。

募金協力だけでなく、飢餓と貧困の現状とその要因やなぜ子どもたちが学校に行けないのか、世界は本当に食料が足りないのか等、世界の飢餓問題と私たちとの関わりを勉強したり、日ごろの生活の中で具体的な一歩を始めたりすることもできます。また家の冷蔵庫にある食材を調べて、私たちの食生活がどれだけ外国からの輸入に依存しているか子どもたちと一緒に考えるのも“わたしから始める一歩”となるでしょう。

当機構は世界食料デーを通じて、愛の輪を広げ、全ての人々が夢を持てる世界の実現を目指していきたいと願っています。ぜひ共に行動していきましょう。

● 2014 世界食料デーについての問合せは東京事務所又は各事務所まで、あなたの取り組み参加をお待ちしています。

ボリビア多民族国／世界里親会・活動現場訪問②　報告：田村啓発総主事

38家族が懸命に生きる村で見た宝物

現在ボリビアでは乳幼児1,000人中41人が5才未満で死亡します。（日本は3人）。その死亡原因の第１位は慢性的な栄養失調です。中南米27ヵ国中ではハイチに次いでワースト２位となっています。特に支援地のリオカイネ地区では1,000人中70人、アサワニ地区では1,000人中50人が５歳を迎えることができません。子どもの権利である「生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利」それらが遵守される事によって、子どもたちの生活環境の改善や将来への希望が生まれてきます。

悪路を通学する子

アサワニセンター訪問の後さらに山奥の、この地域でも最も貧しい村にあるエスケジャニ小学校を訪れました。ここは幼稚園から小学校４年生までが通う学校です。私たちが乗った車はいくつもの川を越え険しい崖淵を越えて行きました。この村の５年生以上の子どもたちは、アサワニセンター校に高低差の激しく危険なこの道を２時間かけて毎日通っているのですから日本では考えられない大変な通学です。

村に近づくと陽気なマーチングバンドの音が聞こえてきました。小学校の子どもたちが民族楽器を奏でて何時間も前から私たちの到着を待ってくれていました。皆が色鮮やかな民族衣装に身を包んでいました。先頭でアンデスの縦笛ケーナを吹きながら私たちを迎えてくれたのは、立派な顎髭を蓄えたウィルフレド・コッシオ・アンテサナ先生でした。小学校には既に村のお母さん方や村長さん、リーダーなど多くの村人が待っておられ、まず村長さんの歓迎の言葉がありました。

ＦＨからの支援があれば…

その後も４人の村のリーダーの歓迎の言葉が続きます。どなたも異口同音、38家族が生きるこの村がどれほど貧しく、FHからの支援なくしては子どもたちの教育や村の存続は難しいことを訴えておられ、「FHからの支援を受けることができれば、この子たちはこの村の宝になる」と語られました。

しかし「“何もないこの村”ではないこと、“子どもたちはすでにこの村の宝”であること、無いものに目を向けるのではなく、既に与えられているものに目を向けてそれを活用することから始めてゆきましょう」と、その後お話させていただきました。

この村を担当するFHボリビアのエドワルドさんは、以前は里子でした。その彼が今スタッフとしてこの村を担当し、自分も里親さんの多くの支援によって勉学に励むことができた経験は、この村の変革に大きな影響を与え確かな実を結ぶことでしょう。良きファシ

村を担当する元里子のエドワルドさん

リテーターとして、決して何もない村でなく既に与えられている資源、村の宝である子どもたちが教育を受けて成長していくことが、この村の自立に向かう変革の鍵であることを村の人々がうなずける「心の変革」から「自立への変革」へと導いてゆくことを祈ります。

●ボリビアでは 20 人の子どもたちのチャイルドサポーターさんを募集しています。お申し込みは世界里親会（大阪）まで

世界里親会 カンボジア里子訪問ツアー

去る５月12日から17日に行われたカンボジアツアーに参加された方々が、
感想を寄せてくださいましたのでご紹介します。

子どもの成長から地域が変わる

★花盛隆志さん

私に息子ができたよ

妻から「チャイルドサポーター」という活動があることを教えられ、ウガンダの少年の里親になったのは2003年３月でした。私は職場で「息子ができたよ」と、自慢したのを今でもはっきり覚えています。

この活動は「貧しくて学校にいけない子どもの学費支援」と思っていました。2008年からバングラデシュの少女、2010年からカンボジアの少女が里子になりました。今回、カンボジア・アンロンベン地区での支援が終わるので里子訪問ツアーがあると聞き、今までの活動がどう役立っていたのか、どんな環境の人たちを支援していたのか知りたくて申し込みました。

支援打ち切りのツアーだから、里子が「今までありがとう 」と言うだけの“式典”だろうと思っていました。しかし訪問ツアーに参加して、私は大きな感動を覚えました。

３ヵ所の村でクロージングセレモニーが行われましたが、どの地区でも多くの村人が集まり、かなり練習したであろう歌や踊り、創作劇等を一生懸命披露してくれました。また決して豊かではない生活なのに、我々のために村人が食材を持ち寄り総出で食事を作ってくれたことに感激しました。

村人から「あなたたちのおかげで知識が増え、私たちの生活が良くなった。とても感謝しているよ」という強いメッセージを受けました。里親会の活動は単に「子どもの支援」ではなく、家族や地域の団結を強め、多くの人々の意識改革と生活向上に役立っていると知りました。

支援金は数十倍、数百倍に活かされていると、大きな喜びを感じました。今回の里子訪問ツアーに参加して、私のJIFHに対する認識が大きく変わりました。こんなに多くの人々が喜んでくれる活動ならば、支援の輪をもっと広げなければならないと感じた私は、地元で、職場で、今日もカンボジアツアーの貴重な体験話を広めています。

★花盛美代子さん

自立に向けて成長中

里親になって11年目、里子も３

人目にして初めて夫と共に訪問ツアーに参加しました。里子のタンキムちゃんの写真に写る風景や「飢餓対策ニュース」の写真を見てどんな所か想像していましたが、実際はもっともっと大変な生活をしていることを知り、支援終了に胸が痛みました。

しかし参加させていただいた終了イベントではコミュニティーが里親会の支援を受けて着実に自立に向け成長し続けていることを知りました。どこにもあふれる子どもの多さと、一人ひとりの目の輝き、はにかむ表情は忘れられません。「この子たちに豊かな主の恵みがありますように」と希望の国カンボジアのことを今も祈っています。

★米澤典子さん

成長した里子に会えた

里子に会えたことは、人生の中でも大きな喜びの出来事の一つとなりました。純粋に成長した里子に会えることは喜びです。と同時に現地でのFHの働きを肌で知る旅となりました。

保護者に教育の必要性を伝え、生活の安定のために農業を教え、保健衛生指導を行い、村人たちがお金を出し合う貯蓄制度を指導する。この制度は、そのお金を低金利で村人に融資して、新しい事業を始めやすい環境をサポートし、また村全体で農機具を購入するなど貧困から安定した生活への変化の大きな役目を担っていました。内戦という大きな傷によって、お互いが信頼できないという人間関係がある中、信頼してお金を預けられるようになったことは神の愛の和解を見る思いです。

子どもの教育の先に村全体を変化させる大きなプロジェクトがあり、それに参加させて頂いていること、一人の里子のサポートを通して、私の人生にとって大きなことを教えて頂く旅となりました。

式典では子どもたちが美しい衣装に身を包み、民族ダンスなどを披露してくれました

★坂井雅子さん

将来を夢見る里子

自立支援活動が完了するとうかがい、ぜひ、里子ちゃんに会って「これからも祈っています」と伝えたいとツアーに参加しました。ところがいざ、彼女の顔を見たら、胸がいっぱいになり、言葉がなかなかでませんでした。幼かった彼女が、この４年間で、家族や村の人々に育まれて、将来の夢を語るまでに大きく成長していたのです。なんという喜びでしょう。別れ際、９歳になったばかりの彼女から「これからもお元気で」と言われて、ますます胸がいっぱいになってしまいました。神様がFHの働きを用いてくださって、子どもたちと家族、そして村を祝福されていることが実感できました。喜びと希望があふれ、私たちの励みにもなる旅でした。感謝します。

FHカンボジアでは、自立にむけて今この村はどの段階にあるのかを５つの川を渡る旅に例えて住民の意識を高めています

★山本美千代さん

子どもの成長は宝物

カンボジアの第一印象は、大地に悲しみが横たわっていました。日本では感じることのできない世界をカンボジアは私に与えました。その第一印象とは対照的に、村人の歓迎を受ける式典に参加させていただき、現在の日本が失っている素朴な温かい愛の共同体が始まっていることに、私は心にあった暗いものがほぐされる思いでした。

里子さんの家を訪問し、里子さんにお会いして感動の時間でした。FHの人が働いてくださり、私は何もしていないのに感謝されて、とても不思議な気持ちでした。

簡素な建物の貧しい家に、キラキラ光る目の子どもたちが育つ姿こそがこの世の宝物です。子どもたちの一つ一つの生命に天が与える知恵と愛が存在することをはっきりと感じ、その生命が大きく育つことを信じたいと思わされました。

世界里親会では、現在バングラデシュ、ウガンダ、ボリビア、ケニアでチャイルド・サポーターを募集（グループでの支援も可）しています。里子一人につき月4,000円です。ウエブサイトからクレジットカードで今すぐ募金ができます。

スバイルー地区で8月からチャイルド・サポーター募集

支援をうけることができるようになった中学生たち

人の成長は、ウンティウンティ
ゆっくり確実に

フィリピンのミンドロ島サンアンドレス村でのコミュニティ開発も今年で７年目に入りました。ゆっくり、確実に人々が育っています。

2009年にハンズ・オブ・ラブの支援で始まったスクールバスは、支援が終わって２年たった今も村の人たちの手で運営されています。また今年度は17名の中学生に家庭の状況に応じて学用品、交通費、寮費のいずれかの支援をしています。なんとそのうち８名は原住民マンヤンの若者でした。今回は初めてテストを実施して学生を選びました。学びたい、という気持ちを応募というかたちで行動に移し、ただ待って支援を受けるのではなく、自らが進み出てそのチャンスを受け取ることができるようにと考えたからです。

地域に与えたインパクト

また識字教室から始まり、ビーズクラフトで現金収入を得始めたマンヤンの婦人17名のグループ、「アグパイサリガン」（みんなで一緒にというアランガン語）の活動は少しずつ地域にインパクトを与えています。彼女たちがビーズクラフトを作って現金収入を得ているのを見た村の年配者たちも、何かしたいと思うようになってきたのです。

「アグパイサリガン」は高齢の人でも作れるものをと、ビラオと呼ばれる竹のお皿作りを選び、ハンズ・オブ・ラブがお手伝いして、フィリピン政府の助成金制度に申請書を提出。見事に助成金を得ることができました。そこで、セミナーを開いてビラオの作り方を自分たちのコミュニティの指導者から学び、現在制作中です。これも収入につながるようにと願います。

日本にも販路を広げたい

このような収入改善プログラムで出来上がってきた製品のマーケットを確保するため、ハンズ・オブ・ラブは他の現地NGOと協力してフェアトレードの準備を始めました。多くのコミュニティで、人々が製品を製作する技術を身につけても、そのマーケットを開拓することができず収入改善につながらない、という問題に打ち当たっているグループを数多く見受けます。自らの手で生活を建て上げるためのお手伝いをする上で、製作品のマーケットを確保する事は重要です。フィリピンの方々が作られた素敵な商品を日本にもお届けしたいと願っています。

きれいにできつつある竹の皿

自立開発支援とは文字通り人々が自立できるよう支援することです。自立できるようになるまで、私たちはその潜在能力が発揮されるのを期待して待ちます。自らの意思で立ち上がり、歩き始める事ができるまで支え続けて下さる方々がいてこそ、それが可能となるのです。今後とも、共に見守っていただければ幸いです。

●ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンへの支援を希望される場合は「海外スタッフサポーター」（一口：毎月 1,000 円）から

南スーダン国内避難民支援／FH南スーダン報告

2014年の初めから戦闘が特に激しくなった南スーダンの現状と支援状況について、FH南スーダンからの報告が届きました。状況はさらに厳しく490万人に人道支援が必要になっています。

また世界保健機構は、水不足によってコレラ、腸チフスや下痢などが急増する恐れがあると警告しています。その上援助物資が略奪され、避難している人々への支援が滞っています。激しい紛争により、FHも一時的にスタッフが安全な場所に避難しなければならない事態になりました。

FH南スーダンは、JIFHをはじめ国連機関との協力によって、上ナイル州、ジョングレイ州、レイ州の避難民9,000家族に対してこれまでに以下のような支援を行いました。

国連とも連係して全人的支援を展開

食料

紛争のために人々が農業生産によって食料を確保することが難しくなり、食料事情をさらに悪化させています。そのためにFHはとうもろこしやソルガム、豆やピーナツなどの他、農具や成長の早い野菜の種を配布しました。また国連の協力のもと、穀物や豆、油、塩のパックを配布しました。

水と衛生

避難している人たちは、着の身着のままで、生活に最低必要なものさえ持たずに逃げていますので国内避難民5,030家族にポリ容器大、洗面器、石鹸を配布しました。

女性と子どもにとっても比較的安全な場所に、350の共同トイレと手洗い場を設置、川の水を汲み上げるためのポンプの購入と汲み上げた水を入れる貯水タンクを難民キャンプから500m以内の場所に設置すると同時に、キャンプ内の人々に、手洗いの大切さや基本的な衛生知識を伝えました。

教育

FH南スーダンはユニセフとの協力で、上ナイル州、ジョングレイ洲のキャンプにおいて、子どもたちが学べるスペースを建設、26の教室を建てました。各教室で60人の生徒が学んでいます。戦闘が激化するボルを脱出した28,000人が避難しているレイク洲では、教室建設と共に、紛争による子どもの心のケアをする教師の訓練もしています。また同時に平和、ジェンダー、子どもの権利などの平和教育をコミュニティーのリーダーに対して行いました。

平和と和解

ＦＨは政府、教会、コミュニティーの中心的なリーダーなどと親密な関係を持ち、協力して平和と和解を促進しています。

◈◇◇◇◈◇◇◇◈

陸路に代わって川を利用することも危険になり、5月現在ではヘリコプターや国連の飛行機、チャーター便などで空輸するなど、できる支援が限られてきています。今も更に困難の中にある人々の必要が満たされるようご支援と共に、1日も早い平和の訪れをお祈りください。

●「ハンガーゼロ・サポーター」（一口：毎月 1,000 円）となって南スーダンの国内避難民を助ける働きを応援ください